

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0175000181		
法人名	社会福祉法人 北見睦会		
事業所名	グループホームかがやきの里むつみ		
所在地	北海道北見市緑ヶ丘3丁目29番地2号		
自己評価作成日	平成26年1月22日	評価結果市町村受理日	平成26年4月7日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL index.php?action=kouhvu_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=0175000181

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「ゆっくり、少しずつ、自分らしく、ありのままに・・・」を運営理念とし、入居されている方1人1人のペースを尊重し、その人らしく生活出来るようお手伝いさせていただいております。ホーム行事などを通じて、入居されている方、その御家族、職員が触れ合い、親しめるような場をつくっています。明るい笑顔と温かい雰囲気作りを心掛け、1人1人の持てる力を引き出せるよう支援させていただいております。また、法人では内部研修を充実させており、職員は働きながら学ぶことができ、より質の高いケアの実現に努めています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市本町5丁目2-38
訪問調査日	平成26年3月17日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

北見市北部の幹線道路に面して設立されている「グループホームかがやきの里むつみ」は2階に生きたいデイサービスセンターを有し、1ユニットで開設されています。地域との関わりを大切に、町内会行事に参加する他、事業所行事に招待したり、2階のデイサービスを町内会の会合に提供したりと相互交流、地域貢献に努めています。開設時からの理念を介護サービスの基盤として職員間で共有し、理念に沿った介護実現の為に毎週そして毎日、具体的な目標を定め利用者を尊重した本人本位のサービス提供に取り組んでいます。日々のサービスを支える介護計画は利用者一人ひとりとの具体的な関わりが分かりやすく記され、どの職員も同じサービスが出来る様に工夫されています。利用者の毎日の記録は分かりやすくまとめられ、毎月家族に事業所便りと共に送付され、家族の安心感に繋がっています。介護サービスの質の向上と維持の為に法人では毎年、各事業所職員の意向を反映した研修会を開催し、更に事業所独自の研修会を開催し職員育成に努めています。十分なスペースが確保されたリビングは明るく利用者の作品や季節の飾りつけ、草花の鉢植えが家庭的な雰囲気を醸し出しています。利用者はそれぞれ自分の居場所を見つけ、事業所を第二の我が家としてゆったりと暮らしている様子が伺えます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆっくり、少しずつ、自分らしく、ありのままに…」を理念に掲げ、毎朝ミーティングで唱和し、地域の中で尊厳あるその人らしい暮らしが遅れる様、ケアに取り組んでいます。	開設時からの理念を玄関、事務室に掲示し、毎朝のミーティングで唱和し浸透を図っています。「ゆっくり、少しずつ、自分らしく、ありのままに…」の理念に沿い、職員は利用者のペースに合わせた支援を心掛けています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、地域の行事には積極的に参加しています。災害時には町内会とお互いに協力し合えるよう協定書を取り交わしています。	町内会行事に利用者と共に参加したり、事業所2階を町内役員会議の開催場所として提供する等、町内会とは良好な関係を築いています。災害時の覚書を交わし協力体制を構築しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームへの訪問や電話での介護相談にその都度応じています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は年6回行ない、ホームの活動状況や事故や研修の報告をし話し合いを行ないます。また、同日に避難訓練や行事を行ない、多くの方が参加できるように努めています。	定期的に開催し、状況報告や行事案内、質疑応答等話し合われています。開催案内は家族全員に行い、議事録も欠席メンバーと共に家族全員に配布し、情報の共有を図り運営に反映する様努めています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護福祉課、保護課とは日頃から連絡を取り合い、協力関係を築いています。	日常的に相談や情報交換を行い、研修の講師を依頼する等、連携を密に取りながらサービスの質の向上に努めています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年1回法人内研修を行なっています。全ての職員が身体拘束をしないケアについて十分理解し取り組んでいます。また、玄関を施錠することについての弊害も十分理解し日中玄関の施錠は行なっていません。	新規採用職員には採用時研修時に身体拘束研修を行うと共に毎年法人内研修で学んでいます。今年度はより実践的な内容とし、身体拘束をしないケアについて理解を深めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年1回法人内研修を行なっており、管理者や職員は高齢者虐待防止法等について学び、いかなる場面でも虐待が行なわれたり見過ごしたりされないことがないように注意を払い防止に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度に関して学び、必要に応じて活用できるようにしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結時、解約時、改定時は十分に説明を行ない、理解・納得を得ています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口、担当者を明確にし意見の反映に努めています。また、運営推進会議でも意見交換を行ったり、相談できるようにしています。また、職員は御家族が面会した際、相談を受けやすい様な雰囲気作りにも努めています。	毎月事業所便りと利用者の日々の記録を送付し、家族に報告しています。面会時や運営推進会議では積極的に意見を求め、日々のケア追加に繋げる事もあります。年に一度クリスマスには家族会と親睦を図っています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議、毎朝晩のミーティング等、随時職員の意見や提案を聴き、可能な限り反映に努めています。また、上司との個別面談でも意見を聴く機会を設けています。	施設長、管理者は毎月の会議時や毎朝・夕のミーティング時、日常業務時を意見や提案を聞く機会としています。毎年、必要な時には個人面談を行い、職員の個別目標達成状況や相談等職員一人ひとりの就業環境整備に努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は職員の努力、実績、勤務状況を把握し、向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備について代表者へ伝えています。代表者も可能な限り職場環境の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は法人内研修を充実させ、段階に応じて法人外の研修を受けられるようにしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協会に入会しており管内の事業所とも交流もっています。市内外より数か所のGHが集まり入居者の合唱団活動を通じて交流しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前より本人と接し、要望や不安等、時間をかけて聴き、安心して暮らせるよう努めています。希望により見学や体験なども行なっています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には家族とも接する機会を持ち、困っている事、不安、要望等を聴き、連絡を密にして安心して入居手続きができるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族が「今」必要としている事を見極め、他のサービス利用も含めた対応ができるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者から学ぶことは多く有り、人生の先輩として尊敬の念を持って接し、共に支え合っています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の絆を大切にし、家族の方の協力も得て、本人を一緒に支えていくようにしています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙や電話、訪問等、これまでの関係が保たれるよう手紙の代筆や電話の対応、馴染みの場所への訪問等、家族の協力を得ながら行なっています。また、希望により遠方の家族へ毎月お便りを発行し生活の状況がわかるようにしています。	友人が訪ねて来た時には歓迎したり、家族の協力を得ながら馴染みの理・美容室に出かけたり、墓参りに出かけたりと利用者のこれまでの関係が途切れないような支援に取り組んでいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を把握し、孤立しないで入居者同士が関わり合い支え合って暮らせるよう努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでの関係性を大切にし、必要に応じてフォロー、相談、支援しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1人1人の言葉や表情、しぐさ等から本人の意向を把握しています。困難な場合は、会議等で話し合い運営理念に沿って本人の思いを尊重しその人らしく生活出来るよう努めています。	独自のアセスメント様式で利用者の生活歴把握や思いの把握に努めると共に、会話や様子等日々の関わりの中から希望や要望を汲み取り、カンファレンスで情報を共有し実現に向けて取り組んでいます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	1人1人のこれまでの暮らし方、環境等把握し、日常のケアに活かしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人1人の生活をケース記録に記載し職員間で共有し、現状の把握に努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月ケアカンファを開催し、本人がより良く暮らす為の意見やアイデアを出し、作成しています。	利用者、家族が望む暮らし実現に向けて個人記録記入方法を工夫したり、定期的にカンファレンス、モニタリングを実施し状況に即した介護計画を作成しています。介護計画は「ケアプラン確認表」に纏められ、プランの実行が確認出来る様に工夫されています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録と24時間シートを作成し、日常生活の様子やケアの実践、職員の気付き等、職員間で共有し、実践や介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族と話し合いながら、状況・要望に応じて可能な限り柔軟に対応できるよう努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	1人1人の意向・必要性に応じて、各関係機関の協力を得ながら、安全で豊かな生活が送れるよう支援しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医師・看護師とは相談できる関係作りに努め、本人・家族等が希望する医療機関を受診できるよう支援しています。また、週1回訪問看護師による健康管理も行なわれています。	受診は家族対応となっていますが状況に即し家族・医療機関と連携し、往診や訪問看護、与薬の徹底等適切な医療が受けられる支援に努めています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者は准看護師であり、介護職員から日常的に医療面の相談、対応ができます。その他、週1回訪問看護師による健康チェックが行なわれています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は本人の日常の様子を説明し、早期退院ができるよう病院関係者や家族等と情報交換や相談をしています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合における指針を定め、看取りについても家族等に説明し同意を得ています。また段階を経て、家族・医師・看護師と繰り返し話し合い、お互い納得できる方針で取り組んでいます。	重度化・看取り介護の指針を作成し、入居時に説明し同意書を交わしています。必要時には家族、医療機関と話し合いながら、希望に沿った対応に努めています。事業所内での研修も実施しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、入居者の急変や事故発生時に備えています。また、職員は順次救命処置の実技研修を行なっています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は年2回行ない、昼夜を問わず入居者が避難できる方法を身につけています。また町内会と災害時における救援活動の覚書を交わしており、お互いに協力できる体制を整えています。	年2回の避難訓練を夜間想定で実施しています。町内会とは覚書きを交わし協力体制を構築しています。備蓄、非常持ち出しの用意も行っています。	現在、停電対策として法人に発電機の要請をしています。火災以外の災害マニュアルの整備を含め、地域住民への具体的な協力要請等、更なる災害対策整備を期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全職員は法人内研修や会議を重ね、入居者の人格の尊重やプライバシーの保護について十分理解しており、言葉のかけ方や対応に気を配っています。	全職員は利用者の人格を尊んだ支援に努め、自己決定の尊重や、個人の空間を大切にする為居室のドアは閉める等プライバシーに注意を払っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を表わせるような関係や環境を作り、1人1人の能力に応じて、自分で決めたり行なったりできるよう支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は業務や効率を優先させるのではなく1人1人の生活ペースや体調、希望に合わせて、その人らしく過ごせるように支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう、本人・家族等と相談し支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	菜園で育てた野菜や季節の食材で調理をしたり、バイキング形式にしたりし、職員も一緒に食卓を囲み食事を楽しめる雰囲気作りをしています。準備や後片付け等、1人1人の希望や力量に合わせて行なえるよう配慮しています。	利用者の好みを取り入れ、職員が考案した献立を施設長が点検しバランスに配慮した食事を提供しています。行事の時にはバイキング形式にしたり、誕生会には好みの物を提供したり、漬物を一緒に漬けたりと食事が楽しくなる様に取り組んでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	調理時は栄養バランスに注意し、1人1人に合わせた食事量・水分量が摂れるよう配慮しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1人1人の口腔状態や本人の力量に合わせて、毎食後口腔ケアをしています。また、必要時には歯科往診や歯科衛生指導に繋がられる様にしています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を通じ、1人1人の排泄パターンや習慣を把握して、オムツの使用を減らすことが出来るように排泄誘導をしています。	排泄チェック表を参考に一人ひとりのタイミングを図りながら、さり気ない声かけで誘導し排泄の自立に向けた支援に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員は便秘の原因や及ぼす影響を理解し、個々の排便パターンを把握し、医師・看護師と相談し便秘予防に取り組んでいます。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	可能な限り1人1人の希望やタイミング、体調に合わせて、入浴を楽しめるよう支援しています。状態に応じた足浴や清拭も行なっています。	一日おき、又は、希望を取り入れ柔軟な対応に努めています。保湿ローションや足浴、清拭と利用者の状況に合わせた支援を行っています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人1人の生活習慣や活動状況、体調等に配慮し、安心して休息や睡眠がとれるよう、医師や看護師とも相談しながら支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理は職員担当制とし、入居者が使用している薬の内容、用法、容量、副作用について理解した上で、服薬の支援と症状の変化の確認に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人1人の生活歴や力を活かして、それぞれ役割を持って生活しています。その中で本人の好み、楽しみを考慮し、気分転換を図りながら生活の質を高められる様、支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お散歩、外気浴、買い物等、希望に沿って外出できるよう配慮しています。ホーム行事では、それぞれの体調に合わせて、コースや時間に配慮し2班に分かれて外出しています。	利用者の体調に合わせ、班分け等の工夫しながら買い物や散歩に出掛けたり、合唱に取り組んだりと利用者の希望に沿った外出支援に取り組んでいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は本人がお金を持つことの大切さを十分理解しており、1人1人の希望や力量に応じて家族等と相談しながら支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人等と電話をしたり手紙のやり取りができるよう、電話の取り次ぎ手紙の代筆・代読等支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースは季節感を持たせ、不快な音や光等なく、温度・湿度にも配慮し、居心地良く過ごせるようにしています。	利用者が集うリビングには、季節の飾り付けや草花の鉢植えが置かれ、温度・湿度・光彩に配慮し居心地良い空間になっています。居室の配置に合わせて置かれたソファは、利用者の寛ぎの場所となっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースの中でも1人に慣れたり、気の合った者同士で過ごせるよう、家具の配置に気を配っています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は使い慣れた物や好みの物を置いたり、入居前の部屋と同じような家具の配置にする等、本人が居心地良く過ごせるよう、本人・家族と相談しながら工夫しています。	居室には使い慣れた馴染みの筆筒等の家具が置かれ、好みの物を飾ったり鉢植えを置いて、その人らしい部屋造りの工夫に努めています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1人1人の「できること」「わかること」を把握し、それを活かすことができ、かつ安全な環境づくりをしています。		